

外 來 種 と 環 境 問 題

地球上に棲むありとあらゆる生き物が、数十億

年もの時をかけて築きあがってきた生態系は崩壊の危機に直面しています。

外来種は本来日本に生息していなかつた種であることから、在来種と競合など生態系に大きな影響を及ぼしています。それに伴い、農業生産にも大きな打撃を与えてます。

人や野生動物に被害を及ぼす感染症、病原菌や寄生虫などを持っていていたり、疑わなければなりません。

本来彼らは、その生息地では、「ごく普通の生き物として生活していたもので、たまたま、導入された場所の環境条件が彼らに適応して生き延び、その場所が大きな影響を引き起こす要因を持つていたに過ぎません。また、外来種全てがその環境に適応し野生化するとは限らず、むしろ稀だとも言われています。だが、一旦野生化し定着すると、きわめて深刻な問題をもたらします。問題は様々ですが、在来種の餌を横取りし駆逐したり、在来の近縁の種

が、効果を上げるどころか生態系や農業に悪影響を与えてしまい失敗に終わった例もあります。

1910年、21匹のマンガースインドから輸入された。鮭・鱈類は、有用な水産資源として、積極的に日本の各地の河川や湖に導入され定着していますが、鱈は本来、外来魚ですが、ブラックバスなどと同様です。



特定外来種アライグマ

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

- 捕獲個体取り扱い上の注意事項。

柿の木は、シメジ栽培
に最適です。
伐採期は、紅葉期から
翌春の休眠期頃。

柿の木は、シメジ栽培
に最適です。
伐採期は、紅葉期から
翌春の休眠期頃。

の復活

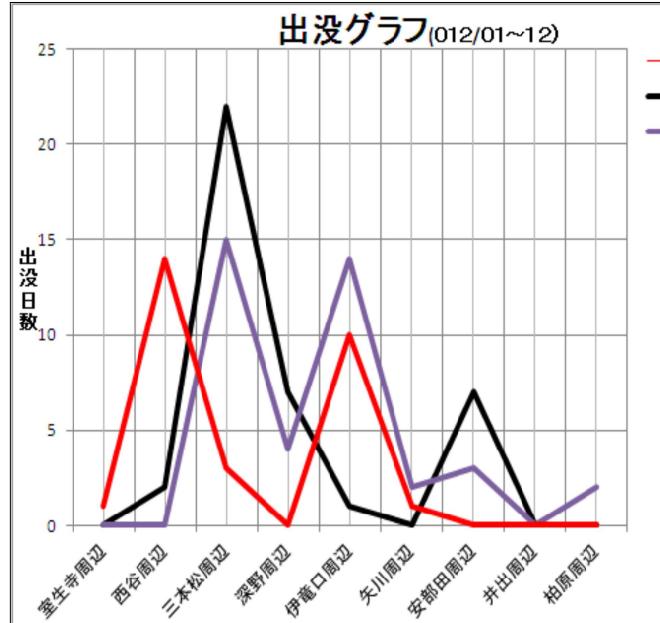
集落の防除対策の強弱もサルの接近回数に大きく影響します。MDによる追い上げで、群れの集落への接近回数が減少し、その遊動域も変化することが、実証されています。

寒暖にも敏感で、寒い冬場は南受けの暖かい山の斜面。夏場は北受けの涼しい森の中を好みます。

「名張鳥獣害問題連絡会」ではホームページで、名張AB群の移動図を掲載していますので、防除対策の参考にして下さい。右の移動図はB群の昨年12月の状況です。

B群遊動域変わる

- 捕獲個体取り扱い上の注意事項。
- 感染症予防の3原則。
- 防護衣着用の徹底。
- 手指洗浄の徹底。
- 使用器具の消毒あるいは廃棄交換の徹底。



**柿の木で
シメジ自然栽培**

獣害対策の一環として
収穫しない柿木の伐採が
奨励されています。
名張市でも多数の柿の
木が伐採され、畠の隅に
捨てられているのが、見
受けられます。

「モツタイナイ」、資源
として再利用すべきです。
山林保護の名目で伐採
された竹にも、同じこと
が言えます。

『伐られた柿の木再利用
でシメジ自然栽培』。

柿の木で
シメジ自然

り急にR165を北に超え深野、安部田周辺を遊動し始めました。II左移動図 今後、周辺地域はB群の動向に注目して、防除体制を整えなければなりません。

立体的に行動するサルの防除は非常に難しく、サルの田畠への侵入を防げば他の害獣も同時に防げます。根気よく続けることが成功の元です。

て発菌を促すよう^{ほんたき}にする。
この期間中は桿木^{ほんじき}を絶対動かさないように注意。

《本伏せ》

7月頃、直射日光の当たらない林内で排水の良好な場所が適當だが、畑・宅地の利用も良い。

密着している桿木を1個ずつ離し、接種した面を上にして土中に8分程度埋め込み、上部をワラ束で被覆する。

直射日光には絶対に当てないようにして湿度70～80%を保てるよう適宜散水する。

種菌は、井上農園（瀬古口）で販売しています。

てドロドロ状の混合種菌とする。
原木の木口に混合種菌を4～5mmの厚さに塗り、その上に別の原木を隙間のないようサンドイッチにする。

柿の木は、シメジ栽培に最適です。

伐採期は、紅葉期から翌春の休眠期頃。

《玉切り》

12～15cmに切り口の合ったものを2ヶ1組とする。接種の時期は2～4月頃が適当である。

【混合種菌の作り方】

種菌：100cc、
米ヌカ：2リットル、
オガコ：4リットル（新鮮な広葉樹のオガコ）
右記の割合で混
合し、更に水を加え

ことなく、今、里山は野生動物の棲家になっています。里山に餌のなくなる季節には、近くの田畠に侵入し食害を起こします。これが獣害の時系列的まとめです。

過去を振り返り、獣害を引き起こしている大きな要因は里山の崩壊ではないでしょうか。

早急に昔の里山の構造を取り戻し、人と野生動物との圧力関係を復活させ、共存を図らなければなりません。又、里山の復活は、生物多様性を守ることにも繋がります。

てられていて、動物たち
が入り込む余地がありま
せんでした。